



秋田市長賞

工藤 光子

(御所野地区)

応募回数 11回

※応募回数は、協議会で確認できる平成以降の記録を基にしております。



1 最近の活動状況

今年のテーマは「花火」です。夜空に輝く花火を、以前から花で作ってみたいと思っていました。大曲の花火のビデオを何回も見て構想を練りました。駐車場に「割物花火五重芯」を鉢を並べて作りました。16年目の庭です。

2 管理方法と花の種類

土作り(有機肥料) 早朝の水やり、花殻摘み、草取り、追肥、防虫等。マリーゴールド、クレオメ、ダリア、カンナ、ヒャクニチソウ、アゲラタム、サルビア、ケイトウ、センニチコウなど、今年は21種類を種から育てました。

3 今後の抱負と計画

5月に2人目の孫が生まれて、東京へ1ヶ月程世話をしに行きました。帰ってきたら、苗の状態が悪く、今年は無理かなと思いましたが、6月下旬から、猛チャージで頑張りました。今後も身体と相談しながら続けていきたいと思います。

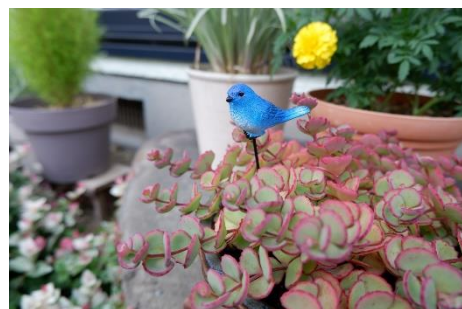


審査員コメント

レンガ張りの道路を進んでいくと、花いっぱいの花園が現れます。夜空に打ち上げられた花火をコリウス、黒トウガラシ、ペチュニア一重、ペチュニア八重、コキアの鉢植えで「割物花火五重芯」を見事に表現しております。

また、別のコーナーではクレオメ、マリーゴールドで「ナイアガラ滝」を演出しておりました。中庭に進むとガウラ、ロシアンセージなど20数種類の草花が見事に咲き誇っており、まさに天空の花園を思わせるような配色、デザインになっておりました。

(審査員長 有野 賢三)





秋田市教育長賞

三千刈東町内会

(寺内小地区)

応募回数 16回

※応募回数は、協議会で確認できる平成以降の記録を基にしております。



1 最近の活動状況

花だんづくりを始めて16年目になります。年々、花だんの面積や花の株数が増えているように思いますが、今年がこれまでで最多となりました。球根や種から育てた花苗が約80%を占めているため、管理や育成に苦労しています。

2 管理方法と花の種類

「一株、一株を大切に育てる」を三千刈東の方針とし、まずは雑草取りから始めています。花茎の生育を観察しながら、追肥や花殻摘み、切り戻しなどを行っています。カンナ、コキア、クレオメ、ハツユキソウ、サルビア、ベゴニア、インパチェンス、ニチニチソウ、マリーゴールド、黒トウガラシ、ホウセンカ、ダリア

3 今後の抱負と計画

お花の公園は笑顔の公園、絆の公園そして愛情の公園になりました。地域の交流の場は花満開で迎えます。2026タイトル「F・LOVE・G（フラワーラブガーデンズ）」

審査員コメント

街中の公園を花いっぱい飾り、花だんの背景にはカンナ、ハツユキソウ、サルビアで飾り、中心にはコキアで大きなハートのオブジェとフラワーラブガーデンズを文字で表現していました。

また、花園の入り口にはアフリカンマリーゴールドとニチニチソウのプランター植えの段飾りで来訪者を迎えてくれました。本年は段飾りの中心にカンナを植え、周りをプランター植えのベゴニアとインパチェンスで四角錐の段飾りを作り、立体的に演出する工夫が見られました。まさに笑顔の公園、絆の公園、愛情の公園は地域に潤いを与え、見る人の心を和ませていました。

(審査員長 有野 賢三)





秋田市緑化推進委員会
委員長賞

ななかまどクラブ

(御所野地区)

応募回数 13回

※応募回数は、協議会で確認できる平成以降の記録を基にしております。



1 最近の活動状況

当クラブは地域環境の美化に努めており、地蔵田二丁目町内外の車道・歩道の緑地帯を花だんとして活用しています。申込花だんは、傾斜地の藪林を耕し、面積を徐々に拡大してきました。会員が協力し合いながら維持管理を行っており、会員同士の情報交換の場にもなっています。

2 管理方法と花の種類

4月から花だんづくりを始めます。傾斜花だんのため、土留め板や木杭の取り換え、階段用ブロックの補修、花苗床の起耕、施肥・マルチ張り、花苗の定植を行い、水やりや雑草取りは随時行っています。10月下旬の片付けまでのおよそ半年間、延べ160人弱が活動に携わっています。今年の花苗は、コキア、ケイトウ、ジニア、ハツユキソウ、ミニひまわり、キバナコスモス、松葉ボタンです。苗はすべて会員が育てたものです。

3 今後の抱負と計画

花だんづくりは、地域の環境美化に大いに役立っており、また会員の生きがいにもなっています。高齢化という課題もありますが、できる限り継続していきたいと思えます。

審査員コメント

道路沿いの緑地帯を真っ赤なケイトウと黄色、ピンクとオレンジのジニア・プロフュージョン、黄花コスモスおよびコキアを階段状に植え付けし、最上段にはハツユキソウを植栽し全体的に豪華さを演出していました。また、赤色、黄色、オレンジ色を主体とした配色は、遠くからでもとても目立つ色の組合せになっていました。傾斜のある緑地帯に階段状に土留め板や管理用の階段を設置するなど大規模な面積の維持管理という大変な作業のなか、メンバー全員の息の合ったチームワークが伝わってくる花だんとなっていました。また、花だんづくりは地域の環境美化に大いに役立っており、かん水や除草等の作業にはご苦勞の跡が見て取れるようでした。

(審査員長 有野 賢三)



桜四丁目町内会

(桜小地区)

応募回数 3回

※応募回数は、協議会で確認できる平成以降の記録を基にしております。



1 最近の活動状況

花だんづくり3年目です。町内環境部、子ども会、協力会員の組織体制で活動しています。5/10に今年のテーマを3湖物語（十和田湖、八郎潟、田沢湖）と決定し、各花だんを湖に見立て苗植えを行いました。毎週土曜日第1～第4花だんの整地と鋤き込み作業を行っています。また、公園のコーナーにはコスモスとキバナコスモスを植えました7/4には、第1花だんを子ども会親子の共同作業による「親子手作り花だん」として完成させました。7/5には第2第3第4花だんへ苗植え実施しました。

2 管理方法と花の種類

水やりは早朝ラジオ体操に参加のメンバーが主体で実施しています。夏休み中は子ども会との一体活動として進めていきます。その他作業は町内環境部、協力員で毎週土曜日など定期的に実施しています。マリーゴールド、サルビア、ニチニチソウ、センニチコウ、ひまわり、ポーチュラカ、コスモス、カンナ他

3 今後の抱負と計画

第6街区公園は、町内会員はもちろん、桜小・中学校の生徒の通学路にも面しており、登下校の際に少しでも心和む公園になればとの思いで活動しています。花だんづくりのキャッチフレーズは、「桜4丁目 心つながる笑顔の花だん」です。



審査員コメント

公園全体から遊び心と温かみ溢れた花だんが視界に入ってきました。花だんの造成も三年目ということで、土作りをしながらの花だんづくりは会員皆様の熱意と努力の成果として花開いておりました。今年は「あきた三湖ものがたり」を花だんづくりのテーマとして十和田湖、八郎潟、田沢湖をイメージして、十和田湖には赤系のカンナ、ニチニチソウなど、八郎潟、田沢湖にはそれぞれの風景を演出する花々が植え付けられていました。また、八郎潟には「うたせ船」と男鹿半島、田沢湖には御座の石と鳥居等を設置し、見る人も楽しめるまさに「心繋がる笑顔の花だん」を実現した素晴らしい花だんでした。

(審査員長 有野 賢三)



萱ヶ沢自治公民館

(雄和地区)

応募回数 17回

※応募回数は、協議会で確認できる平成以降の記録を基にしております。



1 最近の活動状況

東日本大震災の復興を願うひまわりは、今年も種から育て、6年目を迎えました。ハウセンカとコキアは、昨年採取した種が自然発芽した苗をポットへ移植し、その後、花だんへ定植しました。暑さに強い花を選定し、色合いや華やかさを意識した植栽となるよう工夫しました。定植は2回実施しました。

2 管理方法と花の種類

自治会内の各種団体代表者からなる公民館実行委員会で協議し花だんの状況に応じて管理しています。ひまわり、サルビア、コキア、ハウセンカ、カンナ、ジニア、ニチニチソウ、アサガオ、マリーゴールド。

3 今後の抱負と計画

今後とも継続して取り組み、花だんが集落の象徴となるよう努めるとともに、地域住民の花を愛でる意識をさらに高めていきたいと考えております。



審査員コメント

広い花だんに色鮮やかな花々が集落の象徴となっています。一番手前と脇には色とりどりのジニアがこんもりと並んでいます。その後ろ側に黄とオレンジのマリーゴールド。内側には縦に赤とピンクのハウセンカ。中央に白、赤、ピンクのニチニチソウ。東日本大震災の復興を願うひまわりも後方で皆を見守っているかのようです。コキアが大きく育ち、ほのぼのとしたたたずまいです。色合い、華やかさ、ボリュームも充分のデザインであり、訪れた人の気持ちを晴れやかにしてくれる花だんです。

(審査員 鎌田 由加里)





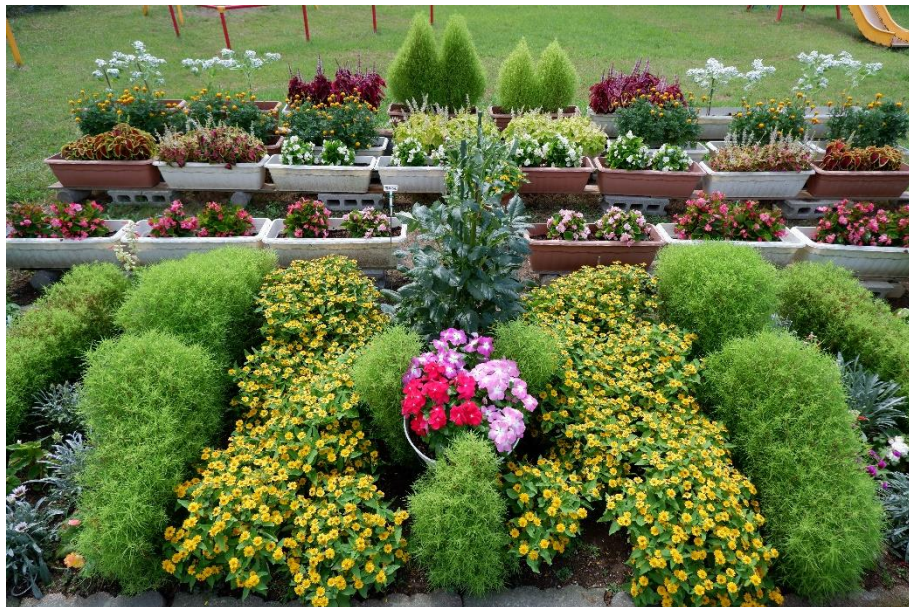
審査員特別賞

梶ノ目第一団地町内会 笑友会

(外旭川地区)

応募回数 24回

※応募回数は、協議会で確認できる平成以降の記録を基にしております。



1 最近の活動状況

花だんの面積を広げて花苗を増やしています。最近暑さに強い花を選んでも、雨に弱かったりと悩みはつきません。花の値段も高くなっていて花選びに苦労しています。

2 管理方法と花の種類

随時、花だん周辺の草刈りや草取りを行っています。町内の老人クラブ（笑友会）の協力を得ていますが、高齢化が進み、体調を壊す人もいたり、なかなか手入れも悩ましいことです。コリウス、メランポジウム、アゲラタム、ジニア、ベゴニア、ペチュニア、コキア、カンナ、マリーゴールド等

3 今後の抱負と計画

町内も老人が増え、助成金が停止になったりとあまりいい方向にすすんでいるとは思えないのが現状です。花だんの存続のため今が踏ん張りどきと思っています。これからも地域の皆で花だんづくりを続け、地域の交流を深めていきたいです。

審査員コメント

テーマ「密林の花」ということで、コキアを密林に見立ててカットし、その間に花々を配しています。ガザニア、サルビア、ベゴニア、千日紅等です。花だんの両側と後方には草丈の高いオレンジ、黄のカンナ、切り花用の背丈のあるアゲラタム、段差を付けたプランターのハツユキソウ、コリウス、マリーゴールドなどでアルプスの山々を表現し、物語性を感じます。会員の皆さんが和気あいあいと楽しく作業をし、交流を深めておられる様子がうかがえました。

(審査員 鎌田 由加里)

